

令和 2 年度  
「学校関係者評価」報告書

令和 3 年 3 月  
学校法人 新潟高度情報学園  
新潟こども医療専門学校

学校法人新潟高度情報学園 新潟こども医療専門学校自己点検・自己評価委員会「学校関係者評価」専門委員会は、令和元年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

### 1. 学校関係者評価専門委員会委員名簿

氏 名	所 属
林 正海	はやし社会福祉士事務所 代表
田村 知子	済生会新潟病院 事務部 医事課 係長

### 2. 参加者

学校評価委員

林 正海 (はやし社会福祉士事務所 代表)

田村 知子 (済生会新潟病院 事務部 医事課 係長)

学校側参加者 (事務局)

小見 英晴 (新潟こども医療専門学校 学校長)

横堀 正浩 (新潟こども医療専門学校 副校長)

石川 美穂 (新潟こども医療専門学校 教務部長代理)

本田 拓也 (新潟こども医療専門学校 就職支援 課長)

小熊 亜沙子 (新潟こども医療専門学校 医療事務総合学科主任)

### 3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

項 目	評価・意見・質問等
基準1 教育理念・目的・ 育成人材像等	・特になし
基準2 学校運営	・特になし
基準3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習受け入れについて →医療事務系は警戒態勢が強く、実習も見学もできなかった。 養護教諭免許のための実習は卒業間際の1、2月によりやく受け入れていただいた。</li> <li>・教員も学生も、実習不可や行事中止等のイレギュラーな事柄に対し、臨機に対応しアイデアを出す力を養えたのではないか。</li> <li>・コロナ禍ならではの SNS の怖さ・人間関係のトラブルについて、SNS での表現の自由が就職活動等に影響を及ぼすことなど</li> </ul>

	<p>も含め、教員間で共通認識した上で学生指導の機会を設けると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響下において保護者の訴えも複数件あったようだが、実習や行事の際にはまず学校の方針を伝え、次に相手の取れる選択肢を伝えることが大切である。学校として感染対策を徹底しているのであれば、他の学校の動きや実習園の意見に振り回されなくて良いのではないか。</li> <li>・事前に学生のネット環境についてアンケート調査し、オンデマンド授業を問題なく進めることができたことは良かった。</li> </ul>
基準4 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習地域や施設でコロナが発生し実習取りやめとなった学生が数名いたが、実習に行けない学生が引け目を感じないように担任や教科担当の勇気づけが大切である。先生からの勇気づけは自己尊重・自己承認に繋がる。</li> <li>・卒業後のキャリア形成の評価は、学校教育の答え合わせとしても必要である。合格や卒業は短期的な目標であるが、卒業後に学校での学びがどう生かされているかを調査することは、カリキュラムアップデートのためにも大切である。実務的な労力負担を避けながらできる方法を見つけると良い。卒業生には「後輩のためのアンケート」というと協力を得やすいのではないか。</li> </ul>
基準5 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への金銭的な支援の状況はどうだったか。 →支援体制はあったが応募者がいなかった。</li> </ul>
基準6 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内のネット環境は依然改善されていない。次年度に向けて考えたい。</li> </ul>
基準7 学生の募集と受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集ではコロナの影響はあったか →昨年比で8割程度。説明会中止や参加者の活動制限等から、例年に比べると募集は難しい状況であった。</li> </ul>
基準8 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
基準9 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護の重要性を学生にも理解を促すと良い。</li> <li>・昨年度は任意保険が未加入だったが、現在は加入済みとのことで、改善されている。</li> </ul>
基準10 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響が大きく、例年のようにはできないのは仕方のないこと。</li> </ul>

#### 4. 学校関係者評価の総括

令和2年度はコロナ禍により、学校教育・学生生活・学生募集においても、その評価は大いに影響を受けたものであった。評価項目の一つにもある「卒業後のキャリア形成の評価」は今後特に興味深く、オンデマンド授業・現場実習の中止や減少・学校行事の中止や縮小等が及ぼす卒業生への影響について知ることは重要だろう。卒業生の3～5年後の姿は学校指導の成果が現れる時であり、現在の教え方が社会にそぐっているのか答え合わせをする意味でも、今後は卒業生の動向を把握するシステムを作り、これからの学生指導に活かしていきたい。

また、個人情報保護法についてもアップデートが必要である。特に、身近にあるLINEの危険性、個人情報の取り扱いについては十分注意が必要である。学校に行けなかった中で先生と個別にやり取りできることは、学生にとっても安心感を得られるだろうが、先生と学生間のコミュニケーションツールとしての利用に際したルールや方法も考えなくてはならない。